

『太平經鈔』丁部

五葉裏三行（六葉表十行（合校212頁）※『經』缺

二〇二〇年十二月二十六日 担当 亀田 勝見

□原文

應天理上下和合天災除奸偽斷絶讖本文。

上古之人、皆心開目明耳洞、預知未然之事、深念未然、感動無情、卓然自異、未有不成之施。所言所道、莫不篤達、不失皇虛之心、思慕無極之智、無極之言。知人壽命進退長短、各有分部、常以陰陽、合得消息、上下中取其要、與衆神有約束。但各不得犯天地大忌、所奉所得、當合天意。

●書き下し

天理に應ずれば上下和合し天災除かれ奸偽斷絶するの讖の本文。

上古の人、皆心は開き目は明らかに耳洞り、預め未然の事を知り、深く未然を念じ、無情を感じ、卓然として自ら異なり、未だ成さざるの施し有らず。言ふ所道ふ所、篤達せざるは無く、皇虚の心を失はず、無極の智、無極の言を思慕す。人の壽命の進退長短に各の分部有り、常に陰陽を以て合はせて消息するを得るを知り、上下中に其の要を取り、衆神と約束有り。但だ各の天地の大忌を犯すを得ず、奉ずる所得る所、當に天意に合すべし。

〔現代語訳〕

天の理に應じれば君臣上下が和合し、天災は除かれ、よこしま・いつわりは断絶する讖（神のお告げ）の本文。

上古の人はみな、心は広く開通し、目はよくものが見え、耳もよく利き、未来のことを事前に知り得た。未来の事を深く考え（判断行動する）ことで、情が備わらぬ存在にも感応して心を動かし、周囲に抜きん出た存在として、教化を行きわたらせる。その語る内容はいずれも懇切周到で、皇天虚静（皇虚の神？）の心を失わず、極まりのない知恵・極まりの言葉を思い慕う。また彼らは人の寿命の伸び縮みや長短にはそれぞれに定められた領分があり、常に陰陽の消長と連動して寿命が伸び縮みすることを知っている。（寿命は）その上下する中の枢要をとらえてあまたの神との間に約定のごときものとして定まる。ただ、いずれも天地の大いなる禁忌を犯すことはできず、司命が奉ずる内容やそこから得られる寿命は、必ず上天の意に合致している。

注

※『經』＝『太平經』、『鈔』＝『太平經鈔』

天理

『鈔』丁部「夫治者有四法，有天理、有地理、有人理、三氣極，然後蛟行萬物理也。願聞其意。天理者，其臣老，君乃父事其臣也。…象天理者，人好生不傷；地理者，順善而成小傷；…」

(210) ※『經』53分別四治法79では「天治」

奸偽

『鹽鐵論』錯幣「文帝之時，縱民得鑄錢、冶鐵、煮鹽。吳王擅鄣海澤，鄧通專西山。山東奸猾，咸聚吳國，秦、雍、漢、蜀因鄧氏。吳、鄧錢布天下，故有鑄錢之禁。禁禦之法立，而奸、偽息，奸、偽息，則民不期於妄得，而各務其職。」

『鈔』庚部「帝王久愁、不能拘制、其下爲奸、偽、故天置『道文出也』」(2024)

※姦偽

賈誼『新書』過秦中「天下多事，吏不能紀，百姓困窮，而主不收卹。然後姦、偽並起，而上下相遁，蒙罪者衆，刑僇相望於道，而天下苦之。」

『經』97妒道不傳處士助化訣154「賢不肖吏民共爲姦、偽，俱不能相禁絕。」

心開・目明・耳洞

『素問』八正神明論篇第二十六「帝曰：何謂神。岐伯曰：請言神。神乎神。耳不聞。目不明。心不開。而志先。慧然獨悟。口弗能言。俱視獨見。適若昏。昭然獨明。若風吹雲。故曰神。」

『後漢書』列伝5王常「聞陛下即位河北，心開、目明，今得見闕庭，死無遺恨。」

『經』111有知人思慕與大神相見訣183「在其所至，不敢還言，應時如到，思得、心開。」

同・有心之人積行補真訣184「見戒，心開、目明，欲在久長之文，增年壽，思進有功，以身躬親，不敢自信，而擅道曲直，爭其不足也。」

『鈔』癸部・賢不肖自知法「上士高賢，事無大小，悉盡畏之；中士半畏之，下士全無可畏。上士所以畏之者，反取諸身，不取他人。心開、意通無包容，知元氣自然之根，尊天重地，日月列星、五行四時、六甲陰陽、萬物蛟行動搖之屬，皆不空生。」(723)

預知未然之事、深念未然

『經』111有德人祿命訣181「惟太上有德之人，各自有理，深知未然之事，照達上下，莫不得開。心之所念，常不離於內，思盡所知，而奉行大化，布置正天下，所當奉述，皆不失其宜。篤達四方，意常通問，正其綱紀，星宿而置，列在四維。」

『抱朴子』內篇金丹「又有九光丹。…欲隱形及先知未然方來之事、及住年不老、服黃丹一刀圭、即便長生不老矣。及坐見千里之外、吉凶皆知、如在目前也。」

感動無情

『禮記』樂記「凡音之起，由人心生也。人心之動物使之然也。感於物而動。…人生而靜，天之

性也。感於物而動。性之欲也。物至知知。然後好惡形焉。好惡無節於內。知誘於外。不能反躬。天理滅矣。」

『鈔』乙部・行道有優劣法「夫王氣與帝王氣相通，相氣與宰輔相應，微氣與小吏相應，休氣與後宮相同，廢氣與民相應，刑死囚氣與獄罪人相應，以類遙相感動。」（6b2）

同乙部・名爲神訣書「太陰、太陽、中和三氣共爲理，更相感動，人爲樞機，故當深知之。」

『莊子』齊物論「形固可使如槁木，而心固可使如死灰乎？」郭象注「死灰槁木，取其寂莫無情耳。夫任自然而忘是非者，其體中獨任天真而已，又何所有哉！」

『南史』40庾肩吾傳「簡文與湘東王書論之曰……詩既若此，筆又如之。徒以煙墨不言，受其驅染，紙札無情，任其搖蕩。」（又『梁書』43文学上）

卓然自異

『淮南子』原道「所謂無形者，一之謂也。所謂一者，無匹合於天下者也。卓然獨立，塊然獨處，上通九天，下貫九野，員不中規，方不中矩……」

『鈔』庚部「故使人主爲作羽翼，開導頭尾，成其所爲城郭，卓然可知。」（16b2）※『合校』作「倬然」

未有不成之施

『漢書』武帝紀「（元朔元年）春三月甲子，立皇后衛氏。詔曰：『朕聞天地不變，不成施化；陰陽不變，物不暢茂。』」

『鈔』丁部「不施自成，天之所仰，當受其名。」（7b2）

所言所道、莫不篤達

『經』114不孝不可久生誠194「惟古今世間，皆多不副人意。苟欲自可，不忠任事。所言所道，樂無奇異，見人爲善，含笑而言，何益於事？」

『經』110大功益年書出歲月戒179「惟上古聖人之爲道也，乃出自然。心知天上之治，所施行皆豫知者。音聲徹通，還知形容，自視心昭然意解。知當救之事，吉凶之會，了然可知。心內欣然，乃知得天之福也。使見前行之事，皆戒篤達。」（『鈔』庚部14b4）

篤達↓『經』111有德人祿命訣181（前出↓「知未然之事」）

不失皇虛之心

『鈔』甲部「長生大主號太平真正太一妙氣、皇天上清金闕後聖九玄帝君，姓李，是高上太之胃，玉皇虛無之胤。」（167）

『雲笈七籤』52雜要圖訣法・回元行事訣「第六紀星。命機北極闔陽魂靈上丹皇虛君。（七過）願得除某七世以來下逮某身所犯所行賊惡罪過。奸逆亂妄。列記帝宮。皆令消滅。百痾康愈。體氣利正。名書仙臺。刻金上清。役使萬神。飛行大明。」

『經』37試文書大信法47「善哉善哉！子之問事，可謂已得皇天之心矣，此其大要之爲解。」

『雲笈七籤』11三洞經教部「上清黃庭內景經」上清章第一「上清紫霞虛皇前，太上大道玉晨君」注「上清者，三清名也。虛皇者，紫清太素高虛洞曜三元道君內号也。」

思慕無極之智、無極之言

『經』110大功益年書出歲月戒179「聞人有過，助其自悔。主其有知，善所諫，用其人言，并見其榮，善教戒人求生索活之道。是善人之極，但當有功，不敢違神之願，思慕長在，復得行見人之願所當逮及。」

『鈔』乙部「乃無極之經也、前古神人治之以真人爲臣」（14a3）

『老子』28章「知其雄，守其雌，爲天下蹊。爲天下蹊，常德不離，復歸於嬰兒。知其白，守其黑，爲天下式。常得不忒，復歸於無極。知其榮，守其辱，爲天下谷。爲天下谷，常得乃足，復歸於朴。朴散爲器，聖人用爲官長。是以大制無割。」

『莊子』養生主「吾生也有涯，而知也無涯。以有涯隨無涯，殆已。」郭象注「以有限之性尋無極之知，安得而不困哉！」

知人壽命進退長短、各有分部

『史記』呂太后本紀「太尉起，拜賀朱虛侯曰：『所患獨呂產，今已誅，天下定矣。』遂遣人分部悉捕諸呂男女，無少長皆斬之。」

『潛夫論』相列「詩所謂『天生烝民，有物有則』。是故人身體形貌皆有象類，骨法角肉各有分部，以著性命之期，顯貴賤之表，一人之身，而五行八卦之氣具焉。」

『經』112衣履欲好誠189「自古及今，各有分部，上下傍行，有所受取。」

同114爲父母不易訣203「善惡之人，各有分部，何得二千乎？」

常以陰陽、合得消息

『史記』74孟子荀卿列傳「騶衍睹有國者益淫侈，不能尚德，若大雅整之於身，施及黎庶矣。乃深觀陰陽消息而作怪迂之變，終始、大聖之篇十餘萬言。」

上下中取其要、與衆神有約束

『經』69天讖支干相配法105「皇天迺以四時爲枝，厚地以五行爲體，枝主衰盛，體主規矩。部此九神，周流天下，上下洞極，變化難睹。爲天地重寶，爲衆神門戶。」（『鈔』戊部）

同110大功益年書出歲月戒179「天有要令，犯者尤醜，輒見治問，責其過咎。用是之故，益復悸動，惻然念天恩所施行，使得全完爲人，知好惡之義，人以此等念恩深厚，不知以何報之。但心思欲進，而有忠誠之信，所爲所作，承奉不敢失小差。恐爲衆神所白，見過於上，有不竟年命之壽。以是益復感傷憂心，不敢自解，而望報施之意。」

同114有功天君敕進訣198「惟思古今有大誠信之人，各有效用，積功於天，乃敢自前。動作止進，未會有小差之惡。常懷慈仁之施，布恩有惠，利於人衆。不有失小信，而不奉承天地，隨四時五行之指歷，助其生成，不敢有不成之意，而自危身，令不安。故自剋念過負，恐不解除，

復為衆神所疏記、而有簿文聞太上也、以是故敢有安時也。」

但各不得犯天地大忌

『經』45起土出書訣「(冒頭)願得知天地神靈其常所大忌、諱者何等也?…所以使子問是者、天上皇太平氣且至、治當太平、恐愚民人犯天地忌、諱不止、共亂正氣、使爲凶害、如是則太平氣不得時和、故使子問之也。」

『經』96守一入室知神戒152「是故上士得之大喜、不而自禁爲也；中士得之、不而自止、常悅欲言也；下士見之、是其大忌也。以吾文觀此三人、而天下善惡分別明矣。子知之乎？」

所奉所得、當合天意

『鈔』丁部「機衡所指、生死有期、司命奉籍、簿數通書、不相應召。」(762)

『漢書』85谷永傳「漢興九世、百九十餘載、繼體之主七、皆承天順道、遵先祖法度、或以中興、或以治安。至於陛下、獨違道縱欲、輕身妄行、當盛壯之隆、無繼嗣之福、有危亡之憂、積失君道、不合天意、亦已多矣。」

□原文

文書相白、上至天君、天君得書、見其自約束分明。乃後出文、使勿自怨、中直自進、不自自聞、音聲洞徹、上下法則、各不失期。恐有不及、未曾有不自責、時常恐有非見督録。神相白未曾懈、有過見退用。故重復語敕、反覆辭文、宜不違所言。是天之當所奉承、神祇所仰、皆如法、常不敢息。恐有不達、所受非一、皆當開心、意恐違期。神有尊卑、上下相事、不如所言、輒見疏記。憂心惻惻、常如飢渴欲食。天君開言、知乃出教、使得相主、文書非一、當得其意、後各有信。

●書き下し

文書相白せば、上天君に至り、天君書を得て、其の自ら約束分明なるを見る。乃ち後に文を出し、自ら怨む勿く、中直もて自ら進ましむ。白さざれども自ら聞き、音聲もて洞徹すれば、上下は法則し、各の期を失はず。及ばざること有るを恐れ、未だ曾て自責せざる有らず、時に常に非有りて督録せらるるを恐る。神相白未だ曾て懈らず、過有れば退用せらる。故に語敕を重復し、辭文を反覆し、宜しく言ふ所に違はざるべし。是れ天の當に奉承する所、神祇の仰ぐ所、皆如法、常に敢へて息わず。達せざる有るを恐れ、受く所は一に非ず、皆な當に心を開き、意には期に違ふを恐る。神に尊卑有り、上下相事ふるに、言ふ所に如からざれば、輒ち疏記せらる。憂心惻惻、常に飢渴して食らんと欲するが如し。天君言を開くに、知れば乃ち教を出だし、相主るを得しめ、文書一に非ず、當に其の意を得れば、後に各の信有るべし。

〔現代語訳〕

文書を奏上すれば天君へと届けられ、天君はその書を得て読み、天人間の約定が截然かつ明瞭である内容であることを確認する。その上で天界の文を俗世に現出させる。この手続きによって人は自らを恨むことなく、中正かつ実直に自ら励むのである。奏上しなくても天君は自ら進んでその内容を耳に入れ、（雷鳴などの）音声によってその意を行き渡らせる。これにより上下の齟齬なく指令に従い、各自求めどおりに動くのである。（人は）その求められるところに及ばないことを恐れ、自らを責めないことはなく、自らに非があれば処罰に会うことを恐れてばかり。諸神も天君へ奏上するが、これを怠ったことはなく、もし過ちがあれば神もその役目をはずされる。それ故天界からの命を繰り返し念じその文章を反復して、天の教えと違わぬようにせよ。これが天を尊び奉ること、諸神が仰ぎみる所以であり、すべて法に従うがごとく、常にその任務を果たし休むことはない。要求に及ばない点があることを恐れねばならず、授かる教令も様々。みな心を開いて受け入れ、その求めに違わぬよう恐れつつしむように。神には尊卑の別があり、上下のやり取りに従事する際、その言葉どおりにできなければその失敗を記録されてしまう。それゆえ憂えて心を痛め、常に飢え渴き食物を欲するがごとく任務を遂行しているのである。天君が言葉を発した際、（人や神々が）このようなことを踏まえていれば、その教えが世に現れ、その後これに則り担当を果たさせることができる。天からの文書は一つではない。その意図するところを把握すれば後にそれぞれ（天からの）信頼（あかし＝天書の出現？）が生じるであろう。

注

文書相白

『經』111有心之人積行補真訣第184「有知之人多所分明，但恐當時有不如言耳，何嫌不相白説，其人有心自思愆負也。…唯大神相白，成就之日，以死命自效，何須望還報。」

上至天君（『鈔』では天君初登場。以降多出）

『荀子』天論「天職既立，天功既成，形具而神生，好惡喜怒哀樂臧焉，夫是之謂天情。耳目鼻口形能各有接而不能也，夫是之謂天官。心居中虛，以治五官，夫是之謂天君。」

『經』47上善臣子弟子爲君父師得仙方訣63「勿敢。但財利其身者，自言爲善，上以置天君父師也。…以何上有益於天君、父師，其爲行增，但各自祐利而已邪？」

約束分明

『經』108要訣十九條173「欲知集行書訣也，如其文，而重丁寧，善約束之。行之一日，消百害猶人心，一旦轉而都正也，以爲天信。」

※敦煌目録太平經卷第五十六「与神約束（東）訣第八十四」

中直自進

『周易』同人「九五，同人先號咷而後笑，大師克相遇。」象傳「同人之先，以中直也，大師相遇，言相克也。」

音聲洞徹

『鈔』丙部・大小諫正法「天地音聲、小諫雷電小急、大諫霹靂數作、諫而不從、因而消亡矣」
(27a5)

『鈔』壬部「人各自度量，志意日高，貪慕上升。其化生光耀，日中所見，洞徹正神，相隨浮遊八表。」(13a7)

『經』110大功益年書出歲月戒179「音聲徹通」(前出↓〈篤達〉)

上下法則

『經』112寫書不用徒自苦誠187「天有教令，當復行矣。無失法則，枉疏記，為置證左，不宜自服。」

同112不忘誠長得福訣190「戒無小大，可法則也。不忘此言長得福，宜慎用行之，不失節也。」

同114不承天書言病當解謫誠202「是曹之人，皆如六畜。但口知臭，香衣好禮，跪起不可法則，常有不錄之心。」

督錄

『漢書』96西域傳「最凡國五十。自譯長、城長、君、監、吏、大祿、百長、千長、都尉、且渠、當戶、將、相至侯、王，皆佩漢印綬，凡三百七十六人。而康居、大月氏、安息、罽賓、烏弋之屬，皆以絕遠不在數中，其來貢獻則相與報，不督錄總領也。」

『後漢書』安帝紀「(延光三年六月)辛巳，遣侍御史分行青冀二州災害，督錄盜賊。」

反覆辭文

『經』41件古文名書訣55「子已知之矣。如都拘校道文經書，及衆賢書文、及衆人口中善辭訣事，盡記善者，都合聚之，致一問處，都畢竟，迺與衆賢明大德共訣之，以類更相微明，去其復重，次其辭文而記置之。」

天之當所奉承

『左傳』昭公七年「昔先君成公，命我先大夫嬰齊曰、『吾不忘先君之好，將使衡父照臨楚國、鎮撫其社稷、以輯寧爾民。』嬰齊受命于蜀、奉承以來、弗敢失隕、而致諸宗祧」

『戰國策』30昌國君樂毅爲燕昭王合五國之兵而攻齊「臣不佞，不能奉承先王之教，以順左右之心，恐抵斧質之罪，以傷先王之明，而又害於足下之義，故遁逃奔趙。」

同110大功益年書出歲月戒179(前出↓〈衆神〉)

『經』111善仁人自責年在壽曹訣182「常生貪活，思奉承天化，復知地理。」

神祇所仰

『墨子』天志中「紂越厥夷居，不肯事上帝，棄厥先神祇不祀，乃曰吾有命，毋修其務(或罔懲其

悔）。天亦縱棄紂而不葆。」

『經』43 大小諫正法「善哉，子之所問，已得天道實核矣。天精已出，神祇悅喜矣。」頻出上下相事

『荀子』王制「夫兩貴之不能相事，兩賤之不能相使，是天數也。」

『經』114 見誠不觸惡訣195「是行當可久見於天神，日月星辰，安肯久照？為天神所祐，而爭欲危之，是誰過乎？不當是善行孝順之人邪？輒有祿位，食於司農，久復子民，使上下相事，是民之尊者也。」

輒見疏記

『史記』110 匈奴列傳「初，匈奴好漢繒絮食物，中行說曰：『匈奴人衆不能當漢之一郡，然所以疆者，以衣食異，無仰於漢也。今單于變俗好漢物，漢物不過什二，則匈奴盡歸於漢矣。其得漢繒絮，以馳草棘中，衣袴皆裂敝，以示不如旃裘之完善也。得漢食物皆去之，以示不如渾酪之便美也。』於是說教單于左右疏記，以計課其人衆畜物。」

『經』114 有功天君救進訣198（前出↓〈衆神〉）

憂心惻惻

『毛詩』邶風·柏舟「憂心悄悄，愠于群小。覯閔既多，受侮不少。靜言思之，寤辟有標。」

『經』110 大功益年書出歲月戒179（前出↓〈衆神〉）

楊雄『太玄經』翁「次七、翕繳惻惻。」范望注「鳥而失志，故高飛、飛而遇繳、欲去不得，故惻惻也。惻，痛也。」(HDC)

潘嶽「寡婦賦」(『文選』16)「庶浸遠而哀降兮，情惻惻而彌甚。願假夢以通靈兮，目炯炯而不寢。」

飢渴欲食

『經』36 守三實法44「愚哉，然天下人本生受命之時，與天地分身，抱元氣於自然，不飲不食，噓吸陰陽氣而活，不知飢渴，久久離神道遠，小小失其指意，後生者不得復知，眞道空虛，日流就僞，更生飢渴，不飲不食便死，是一大急也。」

天君開言

『晉書』128 慕容超載記「超論宿豫之功，封斛毅提等並爲郡、縣公。慕容鎮諫曰：『臣聞懸賞待勳，非功不侯。今公孫歸結禍延兵，殘賊百姓，陛下封之。得無不可乎！夫忠言逆耳，非親不發。臣雖庸朽，忝國戚藩，輒盡愚款，惟陛下圖之。』超怒，不答，自是百僚杜口，莫敢開言。」

後各有信

『雲笈七籤』18 三洞經教部·老子中經·第二十六神仙「經曰、子欲爲道、當先歷藏皆見其神、乃有信、有信之積、神自告之也。」

『鈔』乙部·名爲神訣書「夫天無私祐，祐之有信。夫神無私親，善人爲效。」